

# 令和7年度第1回草津市文化振興審議会 会議録

▼日時：

令和7年7月4日（金）13：30-15：30

▼場所：

草津市役所6階 教育委員会室

▼出席委員：

松本会長、大塩副会長、澤委員、中村委員、涌井委員、垣東委員、村木委員

▼欠席委員：

鎌谷委員、富田委員、成田委員

▼事務局：

藤田教育長、高岡部長、安藤副部長、山田生涯学習課長、伊藤生涯学習課長補佐、中主査、近藤主事

▼傍聴者：

0名

## 1. 開会

---

【教育長挨拶】

皆様こんにちは。教育長の藤田でございます。

本日は今年度初めての草津市文化振興審議会を開催させていただきましたところ、このように御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

日頃から皆様方におかれましては、本市の文化振興に多大なる御支援、御協力、また御指導を賜っておりますこと、心よりお礼を申し上げます。

さて、本市では、平成29年に文化振興条例を制定、施行いたしまして、翌年には文化振興計画を策定し、誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくりと合わせて、文化芸術の振興による都市の魅力づくりを推進しております。

文化芸術の持つポテンシャルは非常に大きな可能性を秘めており、人々に楽しさや感動を与えるとともに、精神的な安らぎや、また生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするといった、いわゆるウェルビーイングを高めることにも繋がっていくものであり、このような文化芸術を守り、育て、そして広くまちづくりにつなげていくことが大変意義深いものです。

こうしたことから、誰もが気軽に文化芸術に親しむきっかけを作り、地域での継続的な活動へとつなげながら、将来の文化芸術の担い手の育成を図っていくことは大変重要であると考えております。

この審議会の中でも御説明させていただきますが、今年度から様々な施設や団体、そして多くの市民の皆様と連携して新たな事業展開もスタートをさせています。このことも含めまして、本日は委員の皆様それぞれの立場からの豊かな御経験と御見識に基づいた忌憚のない御意見を賜りたいと思っております。

どうか本日の審議会が実りあるものとなりますようお願い申し上げまして、開会にあたりましての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2. 委員紹介

---

▼委員自己紹介

▼事務局自己紹介

## 3. 審議事項

---

▼審議事項（1）草津市文化振興計画に係る重点プロジェクトについて

【会長】

それでは草津市文化振興計画に係る重点プロジェクトについて、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

<資料に基づき説明>

【会長】

3つの重点プログラムの展開状況としては、事務局からも説明があったが、「ふるさと草津の心プロジェクト」の進捗が遅れ気味であった。「13万人の文化プロジェクト」については、文化ホールの機能を生かすことを中心にして充実させてきた。

【A 委員】

今年度から市の委託事業となったアートスタート2025「赤ちゃんといっしょに！！コンサート」では、当時、草津市の小学5年生だった女子児童が書いた物語がコンクールに入賞して絵本化され、それに曲を交え、音楽物語として楽しめるかたちで実施した。

【B 委員】

文化芸術担い手育成事業について、1年に数回の講座を実施するだけという単発的な事業に終わってしまうもので、大人ならまだしも、特にこどもは1年も離れると違うことに関心が向いてしまうので、それで担い手につながるか疑問である。

まずは、学校や幼稚園、保育園でそういった環境を整え、その次にいかに継続していける環境を整えていくことが重要である。

### 【C 委員】

講師料はどれくらいか。

障害者施設において講座をしているが、特に障害をもつ方は受講料が高すぎると受講できなくなることから、講師料を低く設定せざるを得ず、それにより水彩画や箏などといった多様な講座が展開できない。

### 【A 委員】

市から委託を受けている文化芸術担い手育成事業において実施する講座の講師料は、世間一般的な額を支払っている。

また、芸大を卒業した若い方に講師のサポート役として協力いただき、その方が担い手となっていけるようにしている。

### 【D 委員】

小学2、3年くらいの時期のこどもは、色々なことに興味を持っているとともに、興味を持っていざ始めてみると、自分の思ったものと違うと覚えることもあるから、1種類の講座を連続して受講するより、色々な種類の講座を体験したうえで、受講する講座を選択するというやり方があってもいいと考える。

### 【E 委員】

文化芸術担い手育成事業での「担い手」とはどういったものか。

### 【事務局】

「日頃から日常的に文化に触れている方」を担い手と考えている。

芸術の鑑賞も含め、作品づくりや音楽活動などの様々な文化活動に触れ、日頃から文化芸術を楽しむ方々が増えていけば、市の美術展覧会への出品などの文化事業への参加につながり、市として盛り上がっていくことから、そういったところを目指していきたいと考えている。

### 【E 委員】

自身の周りには、文化芸術に興味を持ち、日々、取り組んでいる方が多くいると感じる中で、市の美術展覧会など、市の事業への参画に結び付いていない感じを受ける。

### 【会長】

個人的には担い手を増やしていくことに異論はないが、イメージとして、アートマネージャーというような、行政と地域社会との繋ぎ手の層の存在が不足していると思う。

**【事務局】**

文化芸術担い手育成事業について、地域のまちづくりセンターを会場に利用して展開することを1つのポイントとしている。

まちづくりセンターで受講された方が、講座の終了後、地域の自主活動を知り、それに参加することで、継続的活動に繋がっていくことから、地域まちづくりセンターとも連携しながら事業展開していく必要がある。

**【副会長】**

絵本の交換会というのは草津市以外でも行われていると思うが、メッセージを添えるというの  
は無く、面白い取組であると思う。絵本を交換する場の提供は行政が行うことには変わらない  
が、そのなかで市民同士がメッセージをやり取りすることは、まさに施策の研究や準備を経て、  
展開するという段階にきたように感じる。

**▼審議事項（2）成果指標に基づく基本施策及び重点プロジェクトの検証・評価について**

**【会長】**

続いて、成果指標に基づく基本施策及び重点プロジェクトの検証・評価について、事務局より  
説明をお願いします。

**【事務局】**

<資料に基づき説明>

**【会長】**

3つの重点プロジェクトのなかで、「ふるさと草津の心プロジェクト」の進捗率が一番低いこと  
が明らかになったが、進捗率を図る数値目標や成果指標について、今後の計画を改定する際は  
改めていく必要がある。

**【副会長】**

「ふるさと草津の心プロジェクト」が一番停滞しており、何とかしていく必要があるが、進捗  
を図る指標である「情報の収集および発信の充実」は、やりようによってはすぐに取り組める。  
現在は、こういった人とたちをターゲットに情報発信をしているのか。

**【事務局】**

「情報の収集および発信の充実」についての成果指標としては、文化施設のホームページアク  
セス数を設定しているが、現在は、SNS が台頭してきており、次期計画においては成果指標の

見直しは必要であると考える。

**【会長】**

現計画の策定時に、「草津らしさ」とは何かということをどれだけ議論できていたのかなと感じる。

皆様は「草津らしさ」とは何だと考えるか。

**【委員 E】**

草津は子育てしやすいイメージがある。また。教育にも注力している印象がある。

**【委員 D】**

草津といえば、アオバナというイメージがあり、アオバナを芸術に利用した体験できるイメージがある。

**【会長】**

私もアオバナを推して、アオバナをもっと売り出していけばいいと考えるが、現計画において、アオバナはほとんど触れられていない。

白浜では、駅員や町役場の職員は夏にアロハシャツを着ていたり、京都の職員は着物を着ていたり、イメージをととても大切にしている。草津も、「草津らしさ」をもっと議論したほうがいいと考える。

**【委員 A】**

草津は新しいものを受け入れ、古きものを大切にしていると思っている。

ふるさと草津の心プロジェクトの進捗については、草津の題材をたくさん取り入れてミュージカルや音楽会等を行い、情報発信に取り組んでいるが、それらが成果指標に表れないことを残念に感じる。

**【委員 B】**

「草津らしさ」というと難しいので、草津の「良さ」を申し上げと、交通が発達していて何かにつけて「便利で住みやすい」というのが良さであると考える。

**【委員 C】**

草津は食べ物もおいしいし、本陣などの文化的な資産もある。しかし、「草津といえば何か」となると、「アオバナ」でも「草津メロン」でもなく、「イナズマロックフェス」が一番に挙がっ

てくる。こいつたことは、周りに認知がないということであり、草津の魅力の発信力が足りていないというような気がする。

#### 4. その他

---

##### ▼これからの自治体文化施策について

「文化政策の4つの領域」「文化関連法の整備」「文化芸術振興に関する動き」について会長より講演

#### 5. 閉会

---